

亥年の仇討ち

「週末寸言」原稿 070512

「やあ珍しや、そちは岩淵
 伝内。何を隠そう、拙者はあ
 の折乳飲み子たりし惣右衛門
 が一子の惣之助。これに控え
 したのは姉のアヤ。汝に巡り会
 んその姉のため我ら姉、ガマ
 の膏薬売りに身を落とす尋ね
 尋ねて20年。この会で優曇
 が百年目、盲亀の浮木、優曇
 華の花、待ち得たる今日だ
 いま、いざ神妙に勝負！勝
 負！姉者人、妙に勝負！勝
 こに遂げん！油断召さるな
 ツ！」
 ご存知、敵討ちの名セリフ
 だ。念のため、「盲亀の浮木」、
 「優曇華の花」とは実に發生
 確率の少ない事だ。とて、
 前者は目の見えな亀が百年
 に一度海上に上がってくる穴
 の開いた流木に頭を入れるほ
 ど難しいこと、後者は三千年
 に一度しか咲かないと、これ
 とて、辞書には書いてある。映
 画や芝居に頻々と登場する敵
 討ちだが、かくの如く、敵討ち
 が敵に巡り会ったのは、文字通
 り優曇華の花の開花にも似て
 大変だ。たらのし。敵討ちと言
 え、わが国の有名な敵討ちと言
 えば、言わずと知れた「曾我
 兄弟（1193年）」、「鍵屋の
 辻（1634年）」、「そして国
 民的復讐劇「忠臣蔵（170
 2年）」などがある。どれもこ
 れも敵討ちをする方が勝利し、
 また世間も大いにそれに快哉

を叫ぶのだが、そういう風に
 うまくいかなく、た敵討ちも
 有つた。このうた、敵討ちも
 なれば、世の人々の趣味、藻
 なかっただけに、歴史の藻と
 消えてしまった。たの歴史は
 ろうか。また、たの歴史は
 た敵討ちを持つた。然るに、
 な敵討ちを復讐の連鎖と呼ぶ
 と、それゆえに、江戸時代は
 と、仇討ちの禁止は、許され
 と、仇討ちの禁止は、許され
 なつた。敵討ちは、許されな
 右衛門や赤穂浪士の仇討ちが
 讃された。これらは、武士道
 礼賛した。これらは、武士道
 誉められた。これらは、武士道
 そう言え、江戸っ子の期待に
 反して、赤穂浪士は全員死刑
 った。赤穂浪士は全員死刑に
 敵討ち禁止令へ。1873年、
 が、発布された。復讐は法律違
 と、この春は、12年に一度の
 年、選挙の年。統一地方選挙で
 は、「天誅」だ。刺客だ。の
 と、物騒な言葉が、勝ち組だ。
 終わる。負け組への敵討ち人
 よる。不平不満が、頻々と聞
 事の不平不満が、頻々と聞
 てくる。地方公務員とつて
 は、定期的な地方公務員とつ
 春だ。これには「敵討ち禁止令」
 が無いだけ。復讐の連鎖が
 ら、抜けた。復讐の連鎖が
 た、冒頭の芝居は、人集めの
 た、馬場の芝居は、人集めの
 に、馬場の芝居は、人集めの
 う、鼻くそや、と、言われないよ
 知恵も必要。より過す。落語のよ